

—星野信也教授のご退職を迎えて—

社会福祉学科 学科長 増 野 肇

A Profile of Professor Shinya Hoshino and his Scholarly Achievements

Hajime Mashino

星野信也先生が本年3月末日をもって定年ご退職をされることになりました。研究室の前の廊下を、背筋を伸ばし颯爽と歩いておられる先生と行き会うこともなくなるのかと寂しさを感じる思いがいたします。

先生は東京大学法学部第3類（政治学専攻）を1955年に卒業された後、引き続いて学士入学をされ、第2類（公法専攻）を卒業されました。卒業後は、東京都の民生局の行政官として22年間勤められました。その間にも、ロンドン政治経済大学の社会福祉行政学部の研究生としての研究、及び、ブランダイス大学のフローレンス・ヘラー社会福祉大学院での研究では哲学博士号を授与されるなど、学究の徒として研鑽を積まれました。

1978年に大阪市立大学生活科学部社会福祉学科の助教授として就任された後には、国際連合アジア太平洋社会福祉開発センターの社会福祉計画専門官やアジア太平洋経済社会委員会の社会福祉計画専門官としての出向なども体験されました。1982年に東京都立大学人文学部の教授に就任され、ご専門の社会保障法を担当し指導教育されました。また、社会的には、中央児童福祉審議会の保育制度特別部会や母子保健対策部会の専門委員をはじめ、東京都児童福祉審議会委員、特殊法人社会保障研究所専門委員など重要な役割を務めてこられました。

1994年に都立大を定年退職された後は我が日本女子大学に赴任され、専門とされる社会保障、社会福祉行政論を通して学生、院生の教育にあたっていただきました。英米先進国の理論を基礎とした業績を踏まえ、我が国の社会福祉学や行政に多くの刺激を与えてこられた先生に学ぶことができたことは私どもの大きな喜びであります。

日本女子大学に赴任されてからは6年になります。その間、専門の社会保障及び社会福祉行政を教え指導されると共に、社会福祉学専攻主任として、専攻の抱える諸問題に厳しく取り組んでこられました。手足のごとくコンピューターを駆使されて、専攻の規定やシステムを整理し、今あるように作り上げてこられたように思います。

洒落た品の良いスーツに包まれ、英国紳士を思わせる風貌で、いつも背筋をたて、曖昧に物事を済ませることなく、その筋はきちんと通しながら、それでいてどこかに茶目っ気があり、必要などころでは妥協もされていく先生の生き方には、いろいろな面で教えられるところが多かったように思います。

ご退職後もいろいろとお仕事があると思いますが、バブル崩壊後の経済失調の我が国にあって、中流化の後に取り残された社会的弱者のための施策をご指導いただけるように期待しております。これからも、お元気に颯爽とご活躍されるように、心からお祈りいたします。